

# 「あなたの罪は赦された」

～父を知る者には答えがある～

Iヨハネ2:12～17

あなたはどんな人ですか？と聞かれて最初に出てくるのは何でしょうか？自分を見ようとした時日本人の多くの場合、悪い評価をする人が多いです。それは罪責感があるからです。私たちは小さい頃から「悪い事をしたらバチが当たる」と言われてきました。例えば飛行機に乗る時に何か起きるんじゃないかと不安になったりします。しかし飛行機は、ぶつかったり壊れる可能性を最大限排除して飛ばしているのです。欠点分かっているから安全なんですね。私たちは素晴らしい作品です。この世のものを愛し神様との距離が出来たから欠落したのです。自分の欠点が見えるのは素晴らしいです。もし欠点を土台として生きているならそこから抜け出すことはありません。しかし自分の弱いところがちゃんと理解されて、何故そういう状態になっているのかが分かれば、短所であったと同時に長所が分かるのです。自分の問題点に気づいたという事は良くする事のスタートなのです。人は罪を犯し正しく生きれないので、義人ではありません。欠点を持っているからです。飛行機や新幹線はその欠点が出ない様に人為的に出来る事を徹底的に行います。私たちはこのチェックを忘れます。人生を脅かすのは大きな出来事ではなく些細な事なのです。自分の弱点を刺激されるような出来事が起きた時、感情的になり決断をしまったり、自分で分かっている間違った方向へ導いてしまいます。過去の失敗という出来事が私たちを支配して罪責感があるからです。その出来事が赦されていないと、何かをする時に過去の失敗が出てきます。社会は過去を忘れるように関わってくるので自分に言い聞かせて生きるようになります。しかし蓋をされただけでは根本的に解決されてはいないのです。神様はあなたを幸せにしたいのです。神のみこころ(2:15～17)とは何でしょう、それはあなたが罪が赦されたものである(2:12)という事です。罪(弱点)に左右されない人生を生きると飛行機のように正しく飛べます。私たちはやらなくてはならない事をせず、短絡行動をしやすいです。その時に問題は起こりやすいのです。ですから大きな事だけ祈って忠実に行なうのではなく、小さな事に忠実であることが大切です。小さな事とはあなたが赦されている事をちゃんと知っているという事です。

## ■ ①父を知る～起きて歩け～

会堂でイエス・キリストが話していると屋根が壊れ、立つことを出来ない男性を4人がかりで連れてきました。それを見てイエス様は「あなたの罪は赦された」と言われました。目的は「起きて歩け」だったのです。当時、家系の呪いは罪でした。ですから歩けない事よりも「お前の罪のせいだ」と言われる事の方がよっぽど辛かったのをイエス様は知っていたのです。だから立って歩けなくさせている心の痛みを癒したかったのです。神様の目的は、その場しのぎではなく根本解決です。父である神様があなたをどう創り、どう見ているかを知ってください。あなたが謝った事はもう思い出さないと断言されています。イエス・キリストはあなたの過去の罪、全てを代わりに背負いました。黙ってムチ打たれ立ち上がり、あなたがあなたの痛みを背負う為に自ら十字架に進んだのです。聖書が伝えているのは「あなたは赦された」という事なのです。

## ■ ②世と世の欲～鼻から息の出るもの不安と安全神話～

世の中は右でも左でもなく真ん中の中庸に生きると言います。しかし、どの道もその時出来る最善の方法を探すことが大切です。その為に不安と安全神話を取らなければなりません。安全神話の例としてタイタニック号があります。船は当時の技術では最高傑作でした。しかし氷山にぶつかり沈没しました。人々の多くは沈没しないと思いつみ、安全よりも船が世界で一番になる事が大切だったのです。人の目線とはこの様なもので、生きようとする時それを失うのです。神様は決してあなたの過去を無にはしません。しかしその過去を理解しなければいけません。だから悔いて改めるのです。改めることはなかなか出来ません。だからこそ生き様を通して改める生き方を示すのが子育てです。親がしなければいけない事は、恐れず勇敢に自らが進むべき道を見つづけて生きる事です。自分にはこんな弱点があると知り、前に向かって進む事です。その弱さの内に神様が栄光を現すのだと知る事が出来るから、私たちはその弱さをも克服出来るのです。

## ■ ③死に至るまで忠実に！！～父的役割～

BC30年頃、エルサレムが壊れるとイエス・キリストが預言し、70年にローマ兵がユダヤ人を兵糧攻めしてきます。荒らすべきものが来た時には山に逃げろと言われていました。山に逃げた多くのクリスチャンは助かりました。しかしユダヤ人たちは神殿の城壁の中に逃げたのです。エゼキエル書には「私の恵みは去った」と書いてあります。神様はそこにはいませんでした。場所とかではなくユダヤ人たちの心に神様がいなかったのです。彼らが頼ったのは神殿という建物、城壁という壁であり、神様ではなかったのです。忠実とは安全ではなく神様を求める事です。苦難の中にあるのが平安の中にあるのが満ち足りる恵みです。例え人間的価値観で大きな出来事があっても、解決があると信じる事が大切です。神様の元へ帰れば大丈夫なのです。神様の前に出ると父を知ります。父なる神があなたに何を考えているかが分かります。何か起きた時は相手のせいにはせず何が問題なのだろうか考えてください。神様がそれを赦されているのは意味があります。将来を見られる神様の計画なのです。

あなたは既に神様を知っていて、この地でどんな試練に会おうとも天の恵みを相続します。近い人、関わる人に、何をするにも人に対してではなく主に対してするように心からしましょう。あなたの生きる姿を通して神様はご自身を現すからです。あなたが神様の元へ帰ろうとする姿です。イエス・キリストは自ら人がどう生きべきか示されました。そしてどんな時にも神様を大切にされました。大切とは最善を尽くして神様の前に出る事です。右にも左にも逸れる事なく神様と一緒に生きていくその道を選んでいきましょう。目の前にどんな崖や谷であろうと主が共におられれば怖いことはありません。父の元へ帰りましょう。

(要約者:西崎 芳栄)

(2018年6月24日)